

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390100257	
法人名	(株)桜梅桃李	
事業所名	グループホーム和楽の家 上道 (桃ユニット)	
所在地	岡山県岡山市東区才崎260	
自己評価作成日	平成24年1月22日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo-kouhyou.pref.okayama.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3390100257&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館
訪問調査日	平成24年2月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①日笠クリニック(精神科)毎月第1水曜日往診(認知症の専門医である日笠尚知医師) ②野田内科医院(内科)毎週木曜日往診(夜間も往診あり) ③近藤クリニック(歯科)毎月第2・4土曜日往診(随時往診あり) ※口腔ケア指導により口腔内の清潔保持が保てている。 ④音楽療法 毎月第3火曜日/絵手紙教室 第2火曜日 ⑤訪問美容 2ヶ月に1回 ⑥個別外出の充実 ⑦季節のイベント各種/ボランティアの来場/小学校・幼稚園生の慰問 ⑧地域行事への参加(夏祭り・運動会・文化行事・小学校・幼稚園) ⑨移動販売のパン屋(毎週金曜日)/ヤクルト訪問販売(第1・3水曜日) ⑩スタッフの研修制度の充実 ⑪排泄ケアへの取り組み ⑫目標達成計画 2項目中 2項目達成(個別記録の内容の充実/生活歴シートの作成)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム等の小規模施設に「外からの風を」という事で実施されているこの外部評価のチャンス、ここ程上手く活用し、より良いケアやホームの運営改善につないでいる所を私はあまり知らない。特に今回の訪問で見た昨年度目標達成計画への取り組み方はすばらしい。具体的で実情にあった小さな取り組みの積み重ねは、その効果に期待できる内容と思う。また、このホームからは、利用者一人ひとりの歩いてきた人生を可能な限り理解・共感し、今、ここでのおつき合いや「笑顔になってもらう為の職員の思いやり」に役立てたいと願う心意気が強く感じられた。今後、家族や地域の方々と共に手を組みながら成長していこう「和楽の家上道」が、目に見えるようだ。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年に引き続き、個人目標を作成し、毎月1ヶ月を振り返る様にしている。新人職員は、日々、目標・反省をして、ケアにあたる様にしている。さらなるステップアップにつなげるために、新たに目標を立て、ケア向上のために取り組みたい。	会社の理念や今年度の目標は、職員がその掲示を目にする度に思い起こすようにしたり、会議や話し合いの場において、取り組んでいる目標が実践できているかどうか、よく確認し合うようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年に引き続き、散歩、施設内での行事に地域の方々をお招きしたり、地域のイベントにも参加させていただいたり、交流させていただいている。地域周辺地図を作成し、気軽に施設に立ち寄っていただきたい。	地域の交流は年々広く深くなってきているが、昨年度の目標達成計画の一つに掲げ、ホームが積極的に地域の中に入り込もうとする姿勢がみられた。色々な角度から良い工夫がみられてとても良いと思う。	目標達成計画で取り組んでいる一つ一つの具体的な働きかけは是非今後も継続して欲しい。息の長い実践と、「確実に評価し、利用者職員が共に喜び合う事」が増えて行けば嬉しい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	6/12景山富久子先生をお招きし、実体験に基づいた講演をしていただき、地域の方々、入居様、入居者様の御家族、職員で楽しく拝聴しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	「わらく便り」新聞を発行し、施設内の行事やスタッフ紹介などを記事や写真をのせ、ご家族の方々や地域の方へお配りし、近況報告させていただいている。	町内の方々や家族も参加して2カ月に1回実施している。利用者の活動状況もみもらえる行事や災害対策の行事等も組み入れて、家族や老人会の方等の協力を得る話し合いも出来、有意義な取り組みとなっている	内容の濃い運営推進会議が実施されているが、この会議の内容をさらに発展させたり、ホームの運営に活かすまでに至っていないところも見られる。今後一つずつで良いのでチャレンジして欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市、東区の介護保険課などに電話連絡し、去年に引き続き、問題解決できるようにしています。	運営推進会議への参加をホームとしては依頼し続けているが、今の所岡山市の担当者の出席はほとんど無い。但し、日常的には必要な時にホームへの指導・助言・情報提供をしてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	引き続き、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束防止委員会を中心に月1回会議で話し合いをし、常にスタッフ一同、同一意識の元で毎日のケアにあたっている。来年2月施設内研修を予定。	玄関の施錠その他身体拘束の事例は見当たらないが、研修は続けている。また利用者のちょっとした気になる言動の裏に潜んでいる理由を、職員はとことん探る努力をして「心の開放」への試みもよくしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、正しく理解し、職員同志、防止する事を毎日のケアで常に意識して虐待防止委員会を中心に月1回会議で話し合いをする。来年2月、施設内研修を予定している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や、別の研修などで、名前や制度について聞いたことがあります程度で具体的には学べていません。ひき続き積極的に参加する日必要があります。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本社役員特にエリアマネージャーが中心となり、行っています。ケアマネージャーも参加します。説明を行い不明なことなどは、質問してもらい、理解と納得をしていただければよいとしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年間通じての行事(特に家族総会や運営推進会議)などで、ご意見・要望を頂き、改善できるよう努めています。	昨年度の目標達成計画の中で最も重視した課題が、この「家族とホームの関係性」であり面会の家族への対応を工夫し、色々な職員からの働きかけを試みようとしている。訪問した家族が、自分の身内に相対するだけでなく、視野が広がりホーム全体の事まで考えてくれると良い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	働きやすい職場、ケアの向上など毎月の会議にてスタッフ同志、話し合いで決定しています。現場解決できない問題は、本社へ相談し、改善、解決を図っています。	職員から出された意見や要望は、定期的なカンファレンスやサービス向上会議を通して、また、管理者からエリアマネージャーを通して、例えば「休憩時間の問題」等、スタッフから出た要望を改善につないでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が職員の要望・意見にしっかりと耳を傾ける。そして、エリアマネージャー、本社へも相談しながら、改善できるよう努めて下さる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の勉強会(口腔ケアやトロミ剤について)や施設外では認知症研修を始め、感染予防など職員の適正に応じた研修に積極的に参加できるように働きかけています。そして、その内容について報告書を出し、職員全員で共有し、ケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修へ参加したり、同法人内での相互訪問などを行ってはいるが、限られたスタッフしか実行できていない。幅広くゆきわたるよう、心がけたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	毎日の入居者様との会話や所作、行動、表情の変化に気づき、日々の変化を把握し、個々の生活史をスタッフ間で共有し、尊敬の念を持って接するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居様の日々の様子を的確にお伝えし、できるだけ御家族の要望に沿えるよう努め、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接後、暫定プランを立て、その後、本人様の状態把握により、望まれていることや、必要な援助を判断し、御家族の意向を伺いつつ、再プラン作成にあたっています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側ではなく、一人の人、人生の先輩として敬い、我々が教えていただく気持ちで接し、喜び、悩み、怒り等共に共有しながら過ごせるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や運営推進会議など、定期的に足を運んでいただける機会を設け、働きかけを実施しています。ご面会の際には、近況報告を行い、御家族のご意見を伺い、コミュニケーションを大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力により、自宅への外出、外泊支援の実施ができています。美容院や墓参りへ出かけたり、誕生日には行きたい所へ出かけられるような支援に取り組みました。	「墓参りをしたい」という人の希望で職員が年に2～3回願を叶えてあげたり、「以前住んでいた自宅に行ってみよう」という訴えに添う等、職員は一人ひとりの願望に耳を傾け、可能な限り実現させて馴染みの関係を大切にしようとしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の会話が弾むような環境作り、一人きり孤独にならないような環境作りを、色々な場面において、さりげなくお手伝い出来るよう配慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	最大限の情報提供と、退居後の様子をたずねたり、必要に応じて家族との支援作りに努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今現在の暮らしに不満はないか、何がしたいか、会話の中から推測し、言葉、表情や行動等から思いをくみとるように努めています。	職員は必ずという訳にはいかないが、利用者からの訴えに対して「ちょっと、待って」ではなく、少しでも早くその思いに応えようと頑張っている。また、常に利用者の声に耳を傾け、丁寧に聞き取ろうとする姿勢もよく伺われた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の生活歴を把握し、今現在の生活との違いを確認、できるだけ元の生活に近い生活を提供できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	決められた日課、型にはまった生活ではなく、個々のペースを知り、尊重できるよう努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスにて、スタッフ全員で意見交換し、定期的にモニタリングを実施しています。入居者様、御家族様の意見をその都度、面会時などに伺うようにしています。細かい変化への対応は、その都度話し合い、各スタッフへ伝達しています。	自分の家で、という暮らしは無理でも、「第二の我が家」で本人や家族が望む生き方を支援しようとしている。リハビリや楽しみにつながるレク担当を職員間でふり分け、活力のある日常を積極的にケアプランに組み込んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の会話を個別記録に残し、その中から本人様の意向や変化を探り、その都度、話し合い、援助計画の変更をしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々々のニーズに対して、本人様、御家族様とも、その都度話し合い、協力しながら改善、解決していける様努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内では毎月①回民生委員の方により絵手紙教室の開催、シルバーリトミック(音楽療法)ボランティアにより交流を兼ねて心身共に活性化、リフレッシュして頂けるようにしています。地域小学校、幼稚園行事へ参加したり、慰問して頂き、触れ合いの機会を設けています。天気の良い日には地域を散歩しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医との連携を図り、緊急時、対応しやすく本人様やご家族様には安心していただけるような体制作りを努めています。普段の細かい状態変化をお伝えできるようにしています。特別な受診については家族の役割としているが状況によっては職員が受診対応しています。	提携している内科医は定期的な往診がある。母体でもある認知症専門医とはテレビ電話で相談できるようになったし、希望者はデイケアに通っている。訪問歯科による治療や指導も希望者は受けられる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師(3名)を配置しており、日々の業務の関わりの中で、介護士の気付きや細かな体調変化にも常に報告を行い医療との連携につなげています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	病院とは、早期退院、退院後のケアへ繋がられるよう、食事やリハビリなど情報交換できるように努めています。できるだけ面会させて頂き、家族との連絡のやり取りをするようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	開設以来ここで時間をかけて看取りした経験はありませんが、ご本人の意向、本人様にとって一番良い選択を早い段階から、相談話し合いができるようにし、医師との連携を取るようになっています。毎月の会議で本人様にとって今後どうあるべきかの話し合いをし、運営推進会議、家族会で説明相談していく。	その直前まで普通の暮らしをしていた人が突然亡くなるという経験はあるが、ターミナルケアへの取り組みは今後の課題である。この先色々なチャンスにこの課題について家族と話し合ったり、アンケートを取る等、対策を調べておくつもりである。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署との協力を得て、救急手当てや心配蘇生法の研修をホーム内で実施、講習会にも参加し、急変時対応マニュアルの作成にて会議や各自で再確認する様しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、日中夜間の設定で避難訓練を実施。近所の方にも参加して頂いています。緊急時通報システムを使用し、速やかに連絡、対応ができるように訓練をしています。スムーズに避難できるように日頃から通路確保を心掛けています。	昨年9月の運営推進会議では消防署から2名、家族3名も加わって、利用者・職員で防火設備等の勉強会をした。「火災等の避難場所として近所の家をお願いしておいたら」等、貴重な意見もみられた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人ひとりのこれまでの人生を受けとめ、会話やケアの言葉がけ一つにしても安心頂ける様に快適な環境を心がけ実践しています。その人を尊重した日常を展開していくために「どのような生活を送ってきたか？」生活歴シートを作成している。	ある人の攻撃的な言動に対しても、それを迷惑な問題行動として捕えるのではなく、その言動の原因究明をきちんとしている所が素晴らしい。また、職員は利用者の人生歴を共有していて、ある人が不穏になる時は、「その人が最も輝いていた時のビデオを見てもらう」等、よく工夫している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のコーヒータイトムでは入居者様、スタッフが回想を交え、ゆっくりと会話しながら思いや希望が聞き取れる様にしています。生活援助の中でも一つ一つ声かけ、意思を確認しながら自己決定して頂ける様努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、一人ひとりのペースに合わせる様心がけ、押しつけない待つケアを大切にしています。散歩、買物、調理等希望があれば職員と共に個別対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、好みの洋服を着てもらっている。誕生日、行事では各担当職員が各入居者様の好みのプレゼントをしている。訪問美容を利用し、ヘアのおしゃれも楽しんでもらっています。行きつけの美容院へ行かれたりホームで毛染めをされる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ、調理の盛り付け、後片付け等、個々に合わせて共に行える支援をしている。食事は職員も同じテーブルで明るい雰囲気での食事を心がけている。味や好みの話題も盛り入れ楽しい会話ができるよう働きかけている。	人生歴の記録やリビングの「その人紹介」のコーナーにも食べ物の嗜好が書かれていたり「食」に関する話題も多い。時には利用者も一緒に食材の買出しに行っている。「調理の当番で男性職員も頑張っているよ」と教えてくれる人も居た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考え、旬の食材を取り入れ、職員が交代で調理している。入居時嗜好調査を行い、入居者様の好き嫌いを把握している。毎日食事摂取、水分量の把握を行い、個々の体調管理に努めている。食事が取れない時は、高カロリー補助食品や本人様の嗜好品を提供し水分の種類も増やしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きを行ってもらい様声かけをし、個々に合わせた仕上げ磨きを必ず行っている。必要であれば、週1度訪問歯科が利用でき、職員も口腔ケアの指導を受けている。週2回義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表を作成し、必要な方には排泄パターンを記入し、細めな声かけでトイレ誘導し、紙オムツやパットが外せる様取り組んでいる。	両ユニット共有パンツ使用の利用者が多く、排泄の自立度は高い。今の状態をできる限り継続できるように、各種記録をチェックしたり、一人ひとりの特徴を共有して、失敗が少ないケアを心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、飲むヨーグルト等の飲料、繊維質の多いバナナ、きのこ類等を食事に取り入れるようにして腸の運動を促すよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴を楽しんで頂ける様、入居者様の希望に沿うよう心がけ、楽しく入浴して頂けるよう会話にも心がけています。	午後の時間帯に、原則として一日置きの入浴を支援している。時に入浴を拒否する人も居るが、無理強いはせず、柔軟に対応している。見守りや少しの介助で入浴できる人・職員2人の介助が必要な人等様々だが、今の所困難な状況は少ないようだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日々の睡眠状態を把握して、年齢、体調不安等を観察しつつ、その方のペースに合った休息を取って頂くようにする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時には、日付、名前、時間を声に出して自他共に確認。服薬拒否、困難時には飲み込みやすい様、工夫して、飲んで頂く様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に合わせ、調理の手伝い、掃除の手伝い等をしていただき、散歩、オルガンなどその方の希望に沿うよう努力しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の散歩、買物の同行、ドライブ等、出掛ける機会も多く持つようにしている。ホーム以外での行事も積極的に取り組んでいます。	例えば、「菊花展」へはお天気と相談しながら、その都度何人かで出掛けるといった「利用者のその時の思いに合わせ、行きあたりばったりのお出掛け」が実現している所が良い。利用者の重度化が進むと外出は思うようにはいかないもので、今の内にしっかり楽しんでおきたい。	今の所は利用者の状態も良い人が多いので、良い外出支援が出来ると思う。しかし今後状況は必ず変化していくので、家族と共に外出するチャンスをお願いし続けておくのが良いと思う。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の要望に応じ、欲しい物、必要な物はスタッフと共に買い物にその度出掛けています。お金に関わる心配があれば、家族の方と連絡を取りながら、安心していただける様、対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の要望、不安や家族の方の心配をされている場合、家族の方と相談をしながら、安心して頂ける様、対応している。電話が困難な場合、スタッフが伝言するよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間は幼稚や派手にならない様に気をつけ、違和感、不快の無い飾り付けをする様、心がけています。テレビの音や、レクリエーションなど迷惑にならない様、配慮。玄関や居間など季節事に撮影した写真や絵手紙など飾り、生活空間を大切にしている。	リビングルームの壁には楽しそうな写真や利用者の作品その他情報が満載だ。目標にして取り組んでいた「面会家族と他の利用者との交流」を私も試みて、壁面の情報を利用して話しかけてみると、とても良いおしゃべりができた。これは良い結果が得られるに違いないと思った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の配置や、歌や体操のレクリエーションなど、両ユニットのホールを活用しながら工夫している。各々の好きな事(ピアノを弾かれる、新聞を読む、編み物、ボタン付け)を熱中されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、家族との写真や思い出の写真、絵、服など居室で目に届く場所へ飾り、その方々に合った居場所作りをしています。	許可を得て入らせてもらった居室は、いずれもその住人の思いや歴史・家族や職員の愛情が一杯感じられて胸が熱くなった。「幸せな暮らしがここにある」とも感じた。「畳んだ布団の上にちょこんと座らせてもらっているネコ(ぬいぐるみ)もかわいがられていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内の手すり、風呂場内に手すり設置。安全、自立した生活空間を作っている。		